

第1回新生ふくしま復興推進本部会議

- 日 時：平成25年3月11日（月）9：40～10：00
- 場 所：第一特別委員会室
- 内 容

（内堀副知事）

ただいまから、第1回新生ふくしま復興推進本部会議を開催します。
初めに、知事から挨拶があります。

（知事）

それぞれ、皆さんご苦勞様でございます。

今日で震災からまさに2年を迎えました。今まで復旧・復興本部ということでそれぞれ部局なり、本部で様々な対応をしまいましたが、今日から「新生ふくしま復興推進本部」を立ち上げさせていただきます。特にこの本部の機能としては総合調整、これをしっかりと強化していく、そして国・市町村との窓口の一元化、これによって復興を加速させていくということで、この推進本部を立ち上げました。そういう中でも特に県が広域自治体としての役割が極めて大きいことを皆さんしっかりと認識をしていただいて、特に部局間の連携を徹底させる、そしてさらにまた先を見通した対応、そして県民に対して分かりやすい情報をしっかりと発信していただきたい。さらに大事なことでありますけれど、組織のそれぞれ、一人一人、課員、出先まで一人一人に浸透させることが大事なことです。この3点をしっかりと皆さんの肝に銘じて推進していただきたいと思っております。

なお、この会議にはオブザーバーとして総局からも参加していただいて、国・県・市町村とがしっかりと連携してこの復興をさらに進めていく、実行、加速の年にふさわしい体制の中で推進していただきたい。以上よろしく申し上げます。

（内堀副知事）

それでは、「新生ふくしま復興推進本部」について、企画調整部長申し上げます。

（2）新生ふくしま復興推進本部

企画調整部長：

（資料1）これまで「福島県東日本大震災復旧・復興本部」この下で復興にあたってまいりました。それをさらに充実強化いたしまして、本日より「新生ふくしま復興推進本部」を立ち上げることにいたしました。その充実、強化、主な内容を説明します。まず、部局横断的な課題や所管が定まっていなかった新たな業務の調整権を事務局長に付与することによりまして、事務局の権限を強化いたします。それとともに事務局総括班を拡充いたしまして、国・市町村との総合調整機能を強化いたします。事務局総括班にはこれまで専任職員はおりませんでしたが専任職員を配置いたします。

それから総括班の拡充の内容ですが、知事からお話がありましたように、国・市町村との対応窓口を一元化するというところでございます。国の復興体制、これに対応するた

めに国の福島復興再生総局が所管する主要業務、それを担当する県庁内の次長相当職を事務局の総括班に構成員として追加をいたしまして国への総合窓口として対応することといたしました。

国の福島復興再生総局には、この復興推進本部会議のオブザーバーとして参加いただいてこれまで以上に情報の共有化を図ってまいります。また、市町村への復興支援窓口につきましても、避難地域12市町村を担当する避難地域復興局と避難地域以外を担当する市町村総室の次長を事務局の総括班に構成員として追加いたしまして市町村への総合窓口として対応することとしました。今後、復興・再生の取組に係る年度目標を設定して、総合計画、復興計画、それから福島復興再生特別措置法に基づく各種計画、これらを一体的に推進するほか復興の主要事業の予算執行状況を定期的に点検するなど、これまで以上に適切な進行管理を行ってまいります。

(資料2) 事務局各班の復興推進方針でございます。復興推進本部は全庁一体的な組織でございます。それぞれの部局が事務局各班を担っていただきます。これはこれまでの復旧・復興本部と同じでございます。特に部局横断的な課題の対応につきましては、これまで他部局との連携を図るのは当然でありますけれども、各部局の所管業務の範囲内で取組むのではなくて、右側の図にありますように一歩前へ出て所管業務の範囲以上のものがあると思っておりますが、そういうことに対しても主体的に取り組んでいただく、より高いレベルでの部局連携を図っていただきたいと思いますと考えています。それからさらに広域自治体である県の役割が非常に大きいと考えておりますので、その役割を十分認識して業務にあたっていただく、それから目先の課題だけにとらわれなくて、これから起きることを常に予想し、先取りをした対応をしていただきたいと思います。それから常に県民の皆さんを意識して迅速で分かりやすい情報の発信を行なう、そういう方針のもとで本部の各班に取り組んでいただきたいと思います。今後とも「新生ふくしま復興推進本部」の下で、スピード感をもって、全庁一体となって本県の復興・再生に取り組んでいただくようにお願いします。以上です。

(内堀副知事)

続いて、「推進本部」について、総務部からお願いします。

(総務部)

総務部といたしましては、この新しい推進本部の下で抽出されました様々な課題につきまして、課題解決に向けて必要となる予算、人の問題につきまして、迅速かつ適切に対応してまいりたいと思います。

(内堀副知事)

次は、生活環境部長をお願いします。

(生活環境部長)

福島復興のための第一手となります除染、廃棄物の処理につきまして市町村・国と連携しながら全部局一体となって加速化を推進しまして、福島の実環境回復に努めて取り組んでまいりたいと考えております。

(内堀副知事)

続いて、原子力損害対策担当理事をお願いします。

(原子力損害対策担当理事)

いまだ、15万4千人の県民の皆様が県の内外で避難生活を送られております。そのご苦労に対して、避難者支援の立場から、一つ目には避難先であっても安心して暮らしていただくために取り組む、二つ目には、ふるさとの絆を保っていただくために情報の収集提供に双方向で取り組んでいく、三つ目には、相談に丁寧に当たって行きまして、故郷への帰還につなげていく、この三つのキーワードで取り組んでいきたいと思っております。いずれにしましてもオール県庁、全部局あげての取り組みになりますので皆様方のご協力を得ながらしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。よろしく申し上げます。

(内堀副知事)

続いて、避難地域復興局長をお願いします。

(避難地域復興局長)

しっかりした体制でこれからやらせていただきたいと思っておりますが、現場のおかれている状況は、非常に難しく、様々な課題が複雑に絡みあっているということで、この検討、合意の形成、どういう順番で物事をやっていくかという総合的な指針がますます求められると思っておりますので、そこをしっかりとやりながら進めたいと思っております。今回、避難地域復興局の方で窓口の一端を担わせていただきますが、精一杯、これからの手順をどうやっていくか踏みこんで議論しながらやっていきますので、よろしく申し上げます。

(内堀副知事)

続いて、福島復興再生総局から諸橋局長をお願いします。

(諸橋局長)

福島復興局の諸橋でございます。本日で発生から2年、今なお15万人を超える方々が避難をされている。あるいは大変皆様方に、ご不安ご迷惑をかけていることをまずもってお詫び申し上げます。この2年間私どもも、県、関係機関と一体となりまして一生懸命やりました。例えばお住まいにつきましても、公営住宅早いところでは、入居と言う段階に入っておりますし、インフラも着々と整備されて、復旧が進んでいるところかなと思っております。あと県の皆さんの大変ご苦労があったことと思っておりますけれども、米の全袋検査、1年前の今頃はできるのだろうかと思っておりましたけれども、こういう大きな仕事を成し遂げられました。今年は八重の桜ということで大変期待も高まっているところであります。そういいましても、避難を余儀なくされている地域の方々は今なお持って厳しい状況でございますけれども、区域見直しもかなり目処がたってきたかなとの認識であります。国としましてもご案内のとおり福島復興再生総局あるいは総括本部という体制を作りましてあるいは県とご相談をしながら福島特措法に基づく様々な計画も進めているところでございます。また、24年度補正、25年度当初では3本柱とっておりますが、必要な予算を確保し、福島特措法の改正も現在取り組んでいるところでございます。また、先般は早期帰還プランということで策定させていただきました。さきほどの知事の言葉にありま

した、まさに今年は実行加速の年といえるかと思えます。区域見直しもだいたい目処がたつてきつつありますし、住民意向調査もこれでファイナルということではございませんけれども取り組むとしていた自治体は大体結果がまとまったところでございます。こういった材料、ツールもかなり整いましたので今後、県を始め関係機関の皆様方と一緒に1日も早い福島の復興に全力を尽くしてまいりますので、よろしく願いいたします。

(内堀副知事)

続いて、村田副知事をお願いします。

(村田副知事)

復興の推進体制、企画調整部長からお話がありましたけれども、整いました。今日から出発という形になります。知事から復興の実行加速化の年という話がありましたけれども、その中で一番大事なのは、県民に復興を実感していただくというのが一番重要だと思います。そのためには分かりやすい情報の発信、というところが一番のポイントになると思っております。我々、発信する側の分かりやすさではなく、県民が情報を受け取る側からの分かりやすさそれを一番念頭に置いて皆さん情報を発信していただきたい。県民が本当に復興を実感できるような分かりやすい情報発信を我々がやっていかないとならないだろうと思っております。知事のおっしゃる「実行加速化の年」をこの1年間で達成したいと考えておりますので、皆様のご協力よろしくお願いします。

(内堀副知事)

それでは、私から一言。今あった実行、加速していく、そのために必要なキーワードは、今はまだ平時ではなく有事だ、ということに尽きると思います。3. 11から2年がたって一定の落ち着きを取り戻して、前に進んだところもたくさんあります。けれど福島はまだ有事が続いているんだ、だからこの新しい本部を立ち上げて実行していくんだ、このところを是非職員間で共有していただきたいと思えます。緊張感を持ち続けていくことは大変なことです、有事が続いている、県民の方がまだまだつらい思い、不安な思いをされている。この有事の気持ちを是非皆さんで共有して知事がおっしゃる実行の年、そして復興を加速させていく年、実現する年へつなげていければと思えます。

(内堀副知事)

以上で、この本部会議を終了します。